

平 標 山 (松手山まで) 山 行 記 録



右奥に山頂



雪洞を掘る

	平標山 (途中の松手山まで)	期 日	平成19年3月21日(水・祝日) : 終日晴
山行人	笠原正雄単独	特 記	準備不足のため途中でリタイヤ

地 点 名	(着) ~ (発)	記 事
与 板 発	6:00	湯沢迄高速利用。登山口Pは未除雪で雪の下、ふれあいの郷管理棟の前を進み登山口へ。広いトレースがあった。すぐに管理人の車が追いかけて来て、追い出された。三国小学校先の駐車スペースへ。十数台あり。山スキーが多い。
歩 き 出 し	8:00	群馬からの男2・女1 (40歳台) が先行して行く。5分で先ほどの登山口へ。
杉 林 の 登 り		10分もしないうちに群馬隊を超越す。所が、トレースの上には昨夜からの新雪が薄くついている。すなわち、本日のトップとなってしまった。
鉄 塔 へ の 登 り	8:30	樹林の登りで、雪が薄くなっている所となる。夏道も分かりづらく、尾根へと直登する。夏道ロープを跨ぐ。尾根に上がれば鉄塔が見え、トレースが続いている。
ワ カ ン を 履 く	9:10	雪が深くなって来て、時々ぬかるのでワカンを履く。振返れば苗場ゲレンデ。
鉄 塔 下	9:50~10:10	この手前の樹林に入ると踏み跡が徐々に不鮮明となってくる。南下斜面の喬木に雪がかたまりとなって着いている。鉄塔付近南壁に雪庇が張り出していて、所々崩壊している。鉄塔直下は地面が見られた。群馬隊はなかなか上がって来ない。
苗 場 山 を 見 る	10:20	鉄塔からは全くの新雪登高となる。雪庇側を避けて樹林の中を進む。傾斜が増し、場所によっては雪の段差となっているためジグザグに高度を稼ぐ。
雪 原 と なる	10:45	良く晴れ渡り、尾根と山頂がはっきりと見える。雪質が少し変わり、沈む深さも浅くなって快適に歩く。10分後、雪の窪地に入り立ち休み。
松 手 山	11:15~12:50	道標の頭だけが出ている。山頂までの昭文社地図では70分となっているが、雪上歩きでは2時間かかりそうなので、ここまでとした。先月買った山スコップを初使用して雪洞を掘る。掘り終わった頃に群馬隊が来た。一緒に休もうと誘ったが、山頂へと向かって行った。雪洞に入り、彼らの歩きを見ながらランチタイム。彼らの歩きでは山頂2時頃になると思われる。向こう側に降りるとのことだ。
鉄 塔 下	1:10	この後、雪の薄い箇所でも夏道を拾おうと進むがわかりづらい。
別 荘 地 に 下 り る	2:00	雪玉の転がった跡や動物の足跡等で下りルートを見失い2度藪コギ練習となる。けれども、道路が見え車の音も聞こえているのでそちらへと下りる。
駐 車 地 点	2:20	別荘地で方向違いをし、行き止まりとなりUターン。犬との散歩者と逢う。

直前の日曜日、あまり天気は良くなかったが、YHC4人で角田山へ出かけた。今週末も予報は良くない。前日職場でチェックしたら湯沢方面が終日晴と出たので、急遽臨出を断って出かけた。後になって分かったが、この時季山スキーはヤカイ沢で、松手山に登る者は殆んど居ないらしい。出だし群馬隊が先行してこれは安心と思った。しかし、彼らがあまりにも遅く、一人ラッセルの連続と彼らに依存する意識が先行してしまい、途中までで終わってしまった。